

# ごみを減らそう!!



京都市ごみ減量推進会  
議の Mascot もマイ  
バッグ持参を訴える

右茶の水博士も応援のかけ声も



アトムも応援、  
今秋の簡易包装  
キャンペーン



## CONTENTS

- ◆ 特集 1 ..... ②  
「めぐるくんの店」を活用しよう
- ◆ 特集 2 ..... ④  
家庭系有害廃棄物って知ってる?
- ◆ NEWS ..... ⑥  
こどもワークショップ、他
- ◆ 行政からのお知らせ ..... ⑦  
家庭用パソコンリサイクル始まる
- ◆ Report ..... ⑧  
「京都ごみ祭り2003」
- ◆ 会員探訪 ..... ⑩  
京都有機質資源株式会社・ユニバーサルユース研究会
- ◆ Series 「やっています、わたしの住む町で、ごみ減らし」 ..... ⑫  
音羽川学区リサイクル推進委員会（山科区）  
桂東地域ごみ減量推進会議（西京区）



ペットボトルのリサイクル  
素材で作られたバッグ

京都市など13の政令指定都市と  
東京23区の大都市で構成される大  
都市清掃事業協議会は、毎年10月  
をリサイクル月間としてごみ減量  
への啓蒙活動を展開している。今  
年はキャンペーンキャラクターに  
鉄腕アトムを起用した。京都市ご  
み減量推進会議では、この動きに  
連動し、簡易包装キャンペーン展  
開でマイバッグ持参を呼びかけ、  
アトムのマーク入りのバッグを配  
布する。  
アトムの方で、マイバッグ派が増  
えることに期待したい。

めぐるくんの店に貼られるシール



「めぐるくんの店」のショップガイド。行政区別の各店舗の地図や取り扱ひ内容をマークで分かりやすく表示している。



「めぐるくんの店」をご存じだろうか。一

ごみ減量やリサイクルなどに積極的に取り組んでいるとして、京都市から認定された店舗のことだ。現在、170余りを数え、簡易包装やトレー回収、レジ袋削減などを行っているのだが、市民には案外知られていない。そこで、私たち「京都市ごみ減量推進会議」とはパートナーであるべき「めぐるくんの店」をたずねた。

## 【トレー回収で実績を積み いちちはやくめぐるくんの店に認定】

京都市内の数ある「めぐるくんの店」の一つ、東山区大和太路松原東入ルの「ハッピー六原」を訪ねた。食品を中心にした協同組合（組合員12名）とテナントによるスーパー方式の店舗だ。「ハッピー六原」は「めぐるくんの店」の制度がスタートした1995年、いち早く認定を受けた。というのも、それ以前からトレーの回収などに取り組んでいたからだ。「包装業者から、これからは廃棄物をリサイクルしないと生き残れなくなる、といった話を聞き、関心を持ったのがきっかけでした」と話すのは、ごみ問題を担当する高橋かつ子さん。高橋さんは漬物店の店舗を出すかたわら、京都市のごみ減量推進員や消費者モニターなどを経験し、ごみ減量、環境配慮型のお店づくりを他の組合員にも働きかけ、熱心に進めてきた。

そのトレー回収は、当初は洗って持ってきてくれた人に10枚でポイント1個をつけるポイント制を導入、店内スピーカーなどで呼び掛けるなど、密発しながらの試行錯誤だったが、いまだ



回収トレーを整理する高橋かつ子さん

はずっかり定着。お店の脇に設けた大きな回収ボックスに、お客さんがきれいに洗い、乾かしたトレーを何枚もまとめて投入してくれる。ボックスの正面には、年季が入って少々色が薄くなつてしまった「めぐるくんの店」の木製表示板がかかっている。

高橋さんや店長の小山金一郎さんによれば、トレーに加え、牛乳パックと乾電池の回収を行っているほか、詰め

# 「めぐるくんの店」を活用しよう

替え商品をお買い得品にしたり、ばら売りを試みるなど簡易包装を重視。マイバッグの持参を呼び掛けるなど「めぐるくんの店」として、お客さんにも協力を訴えている。

### 認定件数は178件 スタート時からあまり加盟が 増えない

京都市の「めぐるくんの店」認定制度は、1995年7月に発足した。認定を受けるには、店舗面積に応じて別記のような「発生抑制」「リサイクル」「意識啓発等」の取り組みを行っていることが条件で、市としては「めぐるくんの店」を核にしてごみ減量、リサイクルの取り組みを増やし、客である市民の広げも得て、その輪を市内全体に大きく広げていきたいという狙いだ。

ところが、肝心の認定は現在178件で、スタート時からあまり増えていない。その原因はいろいろあるのが、店舗側からは「せっかく、めぐるくんの店になっても、あまりメリットがない」「めぐるくんの店がどういう店なのかが、お客さんにはほとんど知られていないので、アピール力に乏しい」といった声が聞かされてくる。

なるほど「めぐるくん」と聞いたただけで「ごみ減量」や「リサイクル」と結びつきにくいのだろうか。それだけ

に、このままでは各店舗の熱意や努力がお客や市民に伝わらず、コストアップだけに終わる恐れも。そうならばお店の方から「めぐるくん離れ」を起ささないか、心配だ。

### めぐるくんの店を 環境配慮への拠点にしよう

いささか心細い現状だが、将来には大きな夢もあるようだ。「めぐるくんの店」をもっと発展させ、ごみ減量、環境配慮の拠点にしようという試みや模索が始まっているのだ。

「ハッピー六原」では、地域女性会と連携して、天ぷら油の回収拠点を店舗前に置く話を進め、このほど「地域ごみ減量推進会議」を立ち上げた。それに連動し、市ごみ減量推進会議にも加わった。

高橋さんの夢はもっと広がる。いまは「めぐるくんの店」に横のつながりがないが、これを結んだ上「ごみ減量の会員とタイアップし、ボランティア活動などに「めぐるくんの店」で使えるエコ・マネーを作ろう、とのアイデア。このエコ・マネーを学校給食の牛乳パックから再生したすけレットペーパーにも使えるようにすれば、「ごみ減量」にとてもプラスになるだろう。

「めぐるくんの店」がごみ減量のお店として評価され、いきいきと輝いてほしい。そのためにも私たちは「めぐる

るくんの店」を良きパートナーとして引き立て、力を合わせていきたいものだ。

#### 「めぐるくんの店」の認定対象となる取り組み例

##### 発生抑制

- 1.簡易包装
- 2.レジ袋削減
- 3.詰め替え商品、再生品などの販売
- 4.量り売り、裸売り

##### リサイクル

- 5.資源物の回収
- 6.修理サービス
- 7.再生紙の利用
- 8.店舗から出る梱包材の分別・リサイクル

##### 意識啓発等

- 9.ごみ減量・リサイクルの呼びかけ
- 10.社員教育、体制の整備
- 11.その他

めぐるくんの店の看板



問い合わせや認定を受けたい方は、京都府環境局循環型社会推進課 075 (222) 4091へ。

★インターネットのホームページでも詳しく紹介しています。

[http://www.city.kyoto.jp/kankyo/recycle/megurukun\\_no\\_mise/index.html](http://www.city.kyoto.jp/kankyo/recycle/megurukun_no_mise/index.html)

# 家庭系有害廃棄物って知ってる？



私たちの家庭のあちこちで有害なごみが息を潜ませている。扱いを誤ると、環境や人体への影響が大きいばかりか、中には、爆発を引き起こしたりする危険なものもある。しかし今のところ、日本では家庭系有害廃棄物の適正処理やリサイクルシステムが未整備だ。家庭系有害廃棄物とはなにか。簡単にご紹介しよう。



乾電池

どんなものが、家庭系有害廃棄物なのか  
スプレー缶やガスボンベは大丈夫？

使い切れずに家の片隅に置かれた殺虫スプレー缶、カセットボンベ、ガスライター、消火器、化学薬品、塗料類などを「ごみなのか、資源なのか、排出の方法がわからないままに保管している方も多いのではないだろうか。

03年全国都市清掃会議は、500市区町村で適正に処理する「全国難燃廃棄物17品目の処理状況調査を行った(表)」。回答した400市区町村では、スプレー缶、ガスボンベ、蛍光灯の排出が多いことがわかった。爆発性、毒性、感染性、有害性のある廃棄物を特別管理廃棄物制度の下で処理するよう定めている。主要都市では、これらを「排出禁止物」と指定し、家庭からの持ち出しを禁止している。

京都市では、どう処理しているの？  
蛍光灯は一般ごみでいいの？

京都市では、蛍光灯・電球、スプレー缶、カセットボンベ(使い切り穴を開けたもの)、ライター(使い切ったもの)などは、一般ごみとして排出し、焼却処理するシステムをとっている。使用済みの乾電池の場合、簡易な各区道庁・支所などの回収箱で回収し、その後北海道・イタワカに送られ、リサイクルされている。ニカド電池・ボタン型電池は販売店に設置された回収箱に持っていき、メーカーが回収する。

00年秋、京大大学環境保全センター・高月植教授は左京区の126世帯を対象に家庭系有害廃棄物の調査を実施した。その結果、各世帯当たり約35個の有害廃棄物を保管していることがわかった(表)。各世帯当たり約35個、7・8キログラム近くが保管されていたのである。多いのは乾電池、スプレー缶やガスボンベなどの可燃性危険物、漂白剤やトイレ洗浄剤もかなり多い。

意外に多いのは、医薬品・化粧品。使い切らずに残量もかなりあるようだ。また、回収時に容器のひび割れや腐敗による液漏れなどから事故が発生したケースも見逃せない。

市民もこれではいけないと  
家庭系有害廃棄物の調査に乗り出した

これまで手つかず状態にも等しい扱いだった家庭系有害廃棄物だが、「こへまてシステム整備への動きがでてきた。02年11月環境省中央環境審議会の意見書申では、特に、市町村が処理する一般廃棄物で有害性・危険性などの点から処理が困難な物については、「拡大生産者責任」の適用に基づき、生産者による製品設計・素材選択の工夫や、引取り処理などの取組を求める制度のいくつかの拡充が必要である」とされている。

京都市廃棄物処理等推進審議会が、市に對して行った「一般廃棄物(ごみ処理)基本計画の見直し」についての報告書においても、事業者との連携による家庭系有害物・危険物の管理システムの検討が重要施策として挙げられている。

市民の動きもある。京都消費者団体連絡協議会では、現在、家庭系有害廃棄物の適

表2 家庭系有害廃棄物排出実態 (79世帯)

大分類	合計 重量(グラム)	個数
化学薬品	5,614	12
殺虫剤	9,796	72
医薬品	8,271	164
カー用品	27,593	47
塗料	26,487	85
液体燃料(灯油)	47,638	12
カセットボンベ	5,907	35
マッチ・ライター	1,132	68
スプレー品	13,031	110
洗淨剤	33,139	194
化粧品	14,537	174
消火器	63,550	20
蛍光灯	28,251	197
電球	1,237	40
電池	35,612	1,086
家電	184,712	125
刃物	4,189	37
その他	108,404	263
総計	619,099	2,741

00年10月・11月・12月、3カ月間の回収による合計のみを抜粋



化学薬品



塩素系トイレ洗剤

## 参考資料

- 1)高月 結「未知なるごみ」を巡って  
—家庭系有害ごみと引—続しごみ実態—  
廃棄物学会 市民がつくるごみ読本 [C&G]  
vol.13 Supplement 第6号 2002
- 2)高月 結・酒井伸一「有害廃棄物」中央法規 1993
- 3)原 強「ごみと化学物質リスク「家庭系有害廃棄物」  
問題の現状と課題」2003
- 4)環境産業新報00年8月15日発行  
第1039号「処理困難物の排出実態を調査」より

表1 処理困難な廃棄品17品目の処理状況

	排出禁止物として 収集していない	収集して いる	計
スプリング入りマットレス	113	297	410
タイヤ	384	26	410
消火器	388	22	410
バッテリー	384	26	410
小型ガスボンベ	390	20	410
在宅医療器具	271	112	383
FAP製品	229	156	385
ポタン型電池	165	222	387
小型二次電池	165	230	395
エアソール缶	14	389	403
カセット式ガスボンベ	12	397	409
蛍光管	7	403	410
ピアノ	362	34	396
大型金庫	353	40	393
農薬	391	1	392
化学薬品	386	1	387
溶剤・塗料	376	19	395

全国都市清掃会議2003年調査

## 有害化学物質について知りたい方はインターネットを検索しよう

- ・有害化学物質削減ネットワーク

<http://www.toxwatch.net/>

http...



- ・エコケミストリー研究会

<http://env.safetyeng.bsk.ynu.ac.jp/ecochemi/default.htm>
有害物・危険物に頼らないくらしで  
次世代に命をつなごう

それ以外にもなんと有害廃棄物が学ぶ問題の幅広〜奥深いこと…。今後、国や市町村によって適正処理システムが整備されたとしても解決に向けて一歩前進したとしか言えない。爆発事故など直接的な被害だけでなく、燃発事故など間接的な被害だけでなく、有害廃棄物は、地球環境、生

正処理のための調査研究に取り組んでいる。京都市民の有害廃棄物への意識・行動調査、主要自治体の取り扱いの現状、学識経験者へのヒアリングなどを進めている。家庭系有害廃棄物と言われても、どんなものか該当するのかわからないのが実情ではなからうか。「まず、くらしの中から出てくる有害廃棄物の概念を確立しなくては、消団連会長の原強さんは環境汚染リスク削減に熱意を見せる。



態系、人への影響、そして遺伝子にも関わってくる。命そのもの問題なのだ。私たち京都市民としては、

- ①購入する前に、品物の有害性・危険性を  
知る。
- ②知識を得てなお必要と思われる物だけを購  
入する。
- ③購入後は家庭で適正に管理すること。
- ④使い切ったら適正に処理すること。

以上を心がけたい。有害物・危険物に頼らないライフスタイルを築くことを、現代に生きる私たちの課題としたい。

## 子どもたちが歓声をひびかせて マンガでごみを学んだ、夏の1日

せみの声がジンジン鳴り響く中、京（みやぎ）エコリサイクラーでは、子どもたちによる熱心なワークショップが開かれていた。

7月27日遅い梅雨明けの日曜日、同センター3階のリサイクル工房で、ハイムーン先生によるマンガ講座が行われた。小学生を対象に「マンガを描いてごみをへらそう」という試みだ。集まったのは総勢18人、幼稚園年長組から小学6年生まで、小学4年生が中心。

午前中のプログラムは、昨日、各家庭から出たごみを計ってみよう、まずは持ち寄ったごみを測定。午後は、ハイムーン先生による「ごみ減らすごみがへるか」とマンガによる話があり、その後は6人ずつ3グループに分かれて、みんなて話し合いをした後、マンガ制作にとりかかった。最後は完成したマンガと先生とで記念写真をパチリ。描いたマンガは1階に貼り出された。



リサイクル、ご



▲ごみを計ってみる

▼紙ごみについて発表



みを減らす、マイバック、みみずさん（「ソホスト」）などキーワードを交えつつ可愛いマンガができた。これから未来のハイムーン先生は、このマンガにすることで、わかりにくいともやわらかく楽しく、相手に伝えることが出来る、また視覚的に訴えることも、マンガは子どもたちへの伝達パワーを持つ。

（取材記事…たなかまさむ

## 「中京区ふれあいまつり」 「ジャスコ洛南店」で呼びかけ 買い物袋持参・簡易包装推進キャンペーン

全市キャンペーン実行委員会恒例の事業である買い物袋持参・簡易包装キャンペーン。今年は、中京ふれあいまつりで精が上がる。10月19日（日）行われる「中京区ふれあいまつり」（会場：中京中学校）を皮切りに、ジャスコ洛南店の2階イベントホールにてキャンペーンを展開予定だ。10月28日（火）午後4時～5時。当日は、実行委員がたすきを掛け、買い物袋持参・過剰包装をなくそうと呼びかける。

## 市民向けごみ減量実践講座、 企画進行中。今年も3講座を予定

全市キャンペーン実行委員会と地域活動支援実行委員会との協働で開催してきた、市民向けごみ減量実践講座。今年度も3回開催し、めぐレットペーパーについて、愛媛パルプ宇高氏の話を聞いたり、大津板紙を訪れ、秘密書類リサイクルの現場を見学する予定だ。第3回は今年もエコクッキングで講座を締めくくる。

## 循環型社会をテーマに 第1回ごみ減量実践講座開催

京都商工会議所との共催で2000年より開設してきた「エコリサイクル」は「エコミー」ごみ減量実践講座が、今年もスタート。去る9月11日、環境省と京都市環境局より講師



講演する京都市環境局・五十嵐課長

を迎え、第1回講座を開いた。テーマは「循環型社会。シナリオづくりが進むなか、考え方を学んだ」。

第2回「王子製紙の循環型企業としての取組」10月9日（木）

第3回「知ってきたい食品リサイクル法のツボ」11月13日（木）

第4回「ごみ情報最前線」1月22日（木）

第5回「観光京都のごみ」おもてなしの視点で、2月12日（木）

詳しくは、京都市ごみ減量推進会議事務局へ。

## 現場で学んで確かめよう 新企画「見て聞いて・ごみ対策3ミニツアー」

ごみ削減の実情は、教室で講義より現場へ出向くのがなによりと、ミニツアー形式の見学会が開かれる。これはまは1日コースだったがごみ削減により後立つかたさというごち始まった。第1回は9月17日（水）京都ホテルオークラで実施。第2回は10月16日（木）川島織物。第3回は11月18日（火）日新電機を見学する。



紙バックはメーカー毎に分別回収



説明する京都ホテルの見失さん

# 行政からのお知らせ

## 平成15年10月1日から 家庭用パソコンのリサイクルが始まりました。

平成15年10月1日の「資源有効利用促進法」の省令改正に伴い、同日から製造メーカー等による家庭用パソコンの自主回収・リサイクルの仕組みがスタートしました。

### 1. 対象機器

対象となるのは、デスクトップ本体、ディスプレイ（CRT・液晶）、ノートブックパソコン、ディスプレイ一体型パソコン（CRT・液晶）であり、一体として販売されたキーボード、マウス、ケーブル等の付属品については、パソコンと一緒に排出された場合にのみ、回収されます。なお、プリンタは対象とはなりません。



デスクトップ  
本体



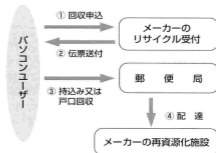
ディスプレイ  
(CRT)



ノートブック  
パソコン

### 2. 回収・再資源化の仕組み

10月1日以降、パソコンを処分する際は、原則として各メーカーに回収を申し込んでください。申し込み後、伝票が送付されます。伝票と共に近隣の郵便局（簡易郵便局を除く）にお持ちいただくか、もしくは、郵便局がご自宅まで回収に伺います。集めた使用済みパソコンをメーカーに配達し、再資源化します。



### 3. 料金

平成15年10月1日以降に販売されたパソコンには、右図のPCリサイクルマークが貼られます。このマークの貼られたパソコンについては、収集運搬・リサイクル料金が販売時の料金に含まれていますので、排出時は無料で回収されます。

平成15年9月30日までに販売されたパソコンについては、排出時に料金を負担していただくことになります。料金（税別）は、各社とも下表のとおりとなっております。

デスクトップ本体		3,000円
ディスプレイ	CRT	4,000円
	液晶	3,000円
ノートブックパソコン		3,000円
CRTディスプレイ一体型パソコン		4,000円
液晶ディスプレイ一体型パソコン		3,000円

(平成15年10月1日現在)



各メーカーの申込先や料金の支払方法等については、社団法人電子情報技術産業協会のホームページ (<http://www.pc3r.jp/>) で、ご確認ください。



### 4. 京都市の収集

10月1日以降も当分の間、引き続き大型ごみでも収集する予定ですが、限りある資源を有効に利用するため、できるだけ製造メーカー等の自主回収・リサイクルにお出しいただきますようお願いいたします。

Special thanks to...  
イラスト: 横田 龍司 京都市環境局 市民生活課  
「京都ごみ祭」制作: 横田 龍司 京都市環境局 市民生活課  
2003 実行: 京都府 京都市 京都市環境局 市民生活課  
2003 実行: 京都府 京都市 京都市環境局 市民生活課

# 京都ごみ祭 2003

6月15日(日)10:00~17:00  
京都市役所前広場



6月15日、市役所前広場は多くの市民で賑わった。学生と市民の両方が主催した初めての試み・・・『京都ごみ祭2003』当日である。

季節外れの台風に見舞われた5月31日からの原征だったけれど、まずお天気に感謝。そして、会場を見渡して改めて気付いた。感謝しなげばならない人が余りに大勢いることに。そのとき、この祭りの市民の手によって支えられ、創られたことを確信できた。今回の祭りの評価はその一点に尽きるだろう。

# 多くの市民の手で開いた『京都ごみ祭2003』

浅利 美鈴

京都ごみ祭2003実行委員会 委員長



## ◆選ずべき決断?

それはまるで夢のような決断だった。

半年以上前から、新しい「ごみ処理基本計画」の策定にあたって、市民の心を開くような取り組みを要請してきた。市民との協働（コラボレーション）を謳うからには、それ相応の覚悟と熱意が必要だったからである。それが約3ヶ月の間に、自分たちの「ごみ祭」主催宣言になってしまったのは開催約3ヶ月前のこと。決断に迫られたときは一瞬、血の気が引く思いだった。久々の体験である。今となっては、そのチャンスと、後押し・サポートして下さった方々に、感謝しなげばならない。

## ◆聞に合うか・・・資金調達・出展依頼

市民の市民による市民のための「ごみダイエツト宣言」の場を実現するために、集まった学生と市民の有志は両方ほど。しかし、躊躇する余裕はなかった。とにかく、やることをやるしかない!しかし、イベント経験など全くない私たちは、やるべきことが方々なく、空回りが多い。そんな中、おたのしみ企画、アドバイス下さる方々の存在が何よりも貴重だったと思う。

それやそれに感動した企業の立案に始まり、顧問・サポーターの確保、関係団体からの後援取り付け、広報活動、参加者・出演者募集、会場探検準備、そして一通の不安材料となっていた資金確保のための募集・出展依頼・・・実行委員会メンバーや所属研究室の学生は、一人役もこなしながら、全てを同時進行で進めた。まさに、「全力投球」とか「駆け抜けろ」という言葉に即応しい。

## ◆「知恵」と「汗」と「汗」をしばって

「やる」と言うためには・・・という意地に近い思いが、私たちの前半戦を支えたと言っても過言ではない。経済的にも自立的、その上、成功を欲せざるため、みんななげい息を吐いた。ウン人言はず・・・とはよく言ったもので、何もなかった私たちは私たちがなりに、経験・奇策を見出した。それが後半戦には「皆で無から生み出す喜び」に近いものとなっていったのだが・・・

その象徴とも見えるのが「テナ」である。予算を窓にオーバーするテナのレンタル料を何とかが浮かせようと考えたのが、市内の学校への貸出依頼。ご厚意により集まったテナ約300枚以上。その全てをスタックの手で運搬・設置した。ここで身につけたテナと壁の立て方は、将来きっと立派な道具はならない。しかし、これにはなんでもな!



市役所に300枚のテナが運ばれて



ごみ処理技術センターでのごみ処理技術者とのミーティング

## ◆市民ごみダイエツト宣言

朝に先立ち、5月11日・18日の二日に渡って開催した「市民ごみダイエツト作戦会議」には、様々な年齢・職業の市民の方々が集まってきた。自分と違う新鮮な視点で「ごみ問題」を考える貴重な機会となった。その一方で、情報が偏在している中で、「あやう」「こう」と言い合っている。これは一時的に問題の本質は変えていないのか?

行政や業者と対等の立場になって、将来の京都のあり方を議論しあえるように・・・その突破点となることを決意し、「市民ごみダイエツト宣言」をまとめた。これは、市民自らの意志（への呼びかけ）と行政等への要請とのセツ



環境市民のブースは「京都前広場」ゲーム実演

関係の制ひたつる活動の現場



## ◆祭のあととこう

反省点をあげるときりがない。しかし、清々しい思いの残りが残っている。公道通り自立的に運営できたとは大きかった。またそれは、将来に明るさを見出した代りでもある。やばできる。幅広い市民層を巻き込んできた。そして、運実に見えることは、一貫りの人間が血にのびよる努力をすれば、より多くの幅広い市民が参加のプログラムでも「ごみダイエツト」を宣言・達成する方が、ほろかにスマートになれると信じているのである。



にわが子模範の経験も活用されたショー

## — 京都ごみ祭2003の開催概要 —

- 主催: 京都ごみ祭2003実行委員会
- 後援: 京都市、京都市ごみ処理推進会議、京市のアジェンダ21フォーラム、京工コロシアムセンター
- 協賛: 内閣府・環境省・京都府・京都市
- 協賛: 高月社京都大学教授、京都府立大学教授
- 開催日: 2003年6月15日(日)10:00~17:00
- 開催場所: 京都市市役所前広場
- 京都: 京都市ごみ処理計画(策定作業)の周知、意見募集
- 幅広い市民層の巻き込み
- ゆるやかなネットワーキング
- 企画内容(祭当日): ごみ総合展、パッセーごみ

- 投げ込み体験、市民公開パレルディスカッション(大学生・外国人の部)、パントラック・オプション、プロアマミュージシャンによる演奏、ショー等/Flows、パントラックパレル、企業・団体ブース、[My Gomi] を作る♪ コーナー、京都市情報提供コーナー、意見交換会(行政企業)
- 職員(ボランティア): プラス出席金数: 10社  
「プラス出席金数」(京都市各) - 19団体  
「ボランティア」(京都市各) - 19団体  
「ボランティア」(京都市各) - 19団体  
「ボランティア」(京都市各) - 19団体  
「ボランティア」(京都市各) - 19団体

- 参加者数:  
・正産にカウントせず  
・パレルブックに配布枚数 - 約100枚  
・ごみ総合展来場者数 - 約330人  
・上記からの参加者数 - 約3,000~10,000人  
・ごみ問題や環境問題に対して、無関心な市民層から関心のある層まで、幅広い層の市民が参加していたように思われる。
- スタッフ数:  
・ボランティアスタッフ - 約100名(前後のチーム投入、手配含む)  
・参加ミュージシャン - 8バンド/30名  
・ショーモデル/演奏者 - 約50名

ボランティアスタッフと実行委員会メンバー: 上田麻衣、河井麻由、藤本結衣、水谷、原、京都ごみ祭2003実行委員会、後援: 京都市、京都市ごみ処理推進会議、京市のアジェンダ21フォーラム、京工コロシアムセンター、協賛: 内閣府・環境省・京都府・京都市、協賛: 高月社京都大学教授、京都府立大学教授





## ユニバーサルユース研究会

名称:ユニバーサルユース研究会  
 会長:山本みか 結成:2000年  
 会員数:38名  
 所在地:〒607-8039 山科区竹鼻本ノ町2-720  
 TEL:090-1718-1028 FAX:075-583-0927  
 E-mail:universal-use@club.email.ne.jp  
 URL:http://www.mmjip.or.jp/universal-use/index.html

活動内容:●メーリングリストでの身近な環境をテーマにした情報交換●京のアジェンダ21フォーラム等による「乳ごまつりワーキンググループ」への参加  
 ●環境者による「リユースカップの実施利用に関する検討調査」への参加  
 ●京都府ごみ減量推進会議への参加 ●「ペットボトルのリターナブル化の調査研究と啓発活動 (H13-H14)」リターナブル容器普及啓発のためのイベントにおけるリユースシステムの検討 (H15)  
 ●日本版ゲシル、モービルを作るための協力呼びかけ



札幌京でも「紙コップより美味しい」と好評



取材に応じてくださった代表 山本みかさん

## ユニバーサルユース研究会

Q ユニバーサルユースとは?

A 私は、環境や安全性が気にはなるけれど、生活する上では、やはり値段や使いやすさを無視できないと思っています。つまりは環境に良いシステムや商品(紙コップ)が、ユニバーサルユース(ユース)のように安くて、社会に対して何らかの行動がとれないとダメかと、ユニバーサルユース研究会(以降、当会)は、インターネットを媒体として集まりました。メンバーは一般の若手市民や消費者、生活者の立場から、安全で納得いく情報、購入可能な価格、入手や利用しやすい方法、理解しやすい広報等を話し合い、製造メーカーや販売店、行政に提案したり、市民に呼びかけたりしています。

Q ごみ減でもペットボトル調査研究を?

A 当会は、平成13年度の2年間、京都府ごみ減量推進会議の調査研究部門「リターナブルPETボトル」の調査研究に共同参加しました。増え続けるPETボトルの回収率を向上させるために、現状のPETボトルも検討しながら、容器の回収システム、洗浄、充填物、マーケティングなどの調査研究を行いました。その結果として、リターナブルPETボトルは技術面、衛生面、法律面において日本でも十分導入可能であると証明されました。

しかし、最大の問題点として、国内のPETボトル製造工程や飲料販売システムがPETボトルを前提としたものであり、それを根本的に変えない限り実現は難しいということがわかりました。そのためには大多数の消費者がリターナブル化を望む以外ないと思っています。

Q ドコソの現状を調査されたか?

A 京都府は、そのリターナブルPETボトルを社会定着させている面があります。その現状を把握、体験するため、2002年8月23日から8月30日まで、ドコソへ行き、京都のリターナブルPETボトルと、それを運営する京都府環境センター、スーパや飲料メーカー、環境センター、家庭用回収業者・取材する中で強く感じたのは、やはり回収システム整備と、その意味を認識する生活者よとのみ、リターナブル化が実効をあげるのたと思っています。この調査は、リターナブルPETボトルリサイクルする前にリターナブル容器を使いたい」という冊子にまとめて回収班しました。



ドイツ視察の報告等をまとめた冊子「リターナブルPETボトルリサイクルする前にリターナブル容器を使いたい」

Q 京外へも展開されるのか?

A 観光都市である京都のお祭やイベントを通じた環境の教育や啓発を行うように、リターナブルPETボトルの実用調査を展開していますが、使用済みの容器を次の利用者へ入るため回収、

清潔に洗浄し、また利用するということを検討してもらいたい。そうすると、利用者・提供者ともリターナブル容器システムの構築を学びながら、社会へ啓蒙することが可能に安くなっています。

この取り組みについては、京のアジェンダ21フォーラムの「まちづくりワークショップ」にも参加しています。今年に入り、コトカタール(川も森)3月、笹園(山田洋行の給水・あけぼの保育園)夏祭り(7月、左京区)祭(8月)、高階久性プラスチックカップと高性能洗剤を持ち込み、実際の飲料販売・配布に利用しました。また、醍醐夏祭り(8月)ではネオジットの実験も行いました。来場者・参加者の反応も良く、手ぶえを感じています。実験を継続し、環境効果や効果やネオジットの有効性をまとめてシステムを評価するつもりです。

Q 今後の展開は?

A この11月には環境配慮型PETボトルに、まだなく数回なメンバーがあります。お祭やお祭の取り組みがいろいろありますが、それを楽しく継続させていきたいと思っています。それと、活動や調査の結果を、一つ一つの形にして発表したりしたいです。これまで、調査研究内容について発表会を行った。イベントやセミナーも開催を行ったりしていますが、よりわかりやすい形を追求したいですね。あらゆる意味でユニバーサルな活動です。



京都でのリターナブルPETボトル導入風景

# 「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

取材：岡かおる

## （近隣学区からの持ち込みや見学も 広がる回収の輪）

音羽川学区リサイクル推進委員会（山科区）

女性会を母体にした音羽川学区リサイクル推進委員会が活動を始めて2年。同会では女性会の役員を中心に、月に一度の使用済み天ぷら油回収、公道の清掃やフラワーボックスの設置など、リサイクルや町の美化に取り組んでいる。

油の回収拠点は、スーパーの駐輪場や公園など3カ所。回収時にはそれぞれ2名のメンバーが立ち会う。役員40名でローテーションを組んでいるので当番が回ってくるのは年に2回程度。回収日時のお知らせは、女性会の月報やポスターによって行われている。

回収量は徐々に増え、各地点で20リットル入りのポリタンク1〜2個分。その他、地域の豆腐店などが持ち込む一斗缶も多い。また最近では、まだ油回収を行っていない近隣学区からの持ち込みや見学も増えている。「月に1回では忘れやすい。もう少し回収日や設置場所を増やせれば」と副会長の安達純子さん。

- ◆会長：小野樟二
- ◆会員数：220人
- ◆発足：2001年（平成13年）7月
- ◆使用済み天ぷら油の回収：毎月第4金曜日、午後2時〜3時。回収拠点は3カ所。



ポリタンクの注ぎ口には金網を設置して油がすくまれないように。

左から会長の小野さん、高野さん、八木さん、安達さん、前はしの北川さん。



## （女性会のつながりで負担も少なく 4年目に）

桂東地域ごみ減量推進会議（西京区）

午前9時。強い日差しが照りつける夏の下、阪急桂駅近くの住宅街では桂東地域ごみ減量推進会議のメンバーが月に1度の使用済み天ぷら油の回収を行っていた。

同会の油回収は、それまで他団体が行っていた活動を引き継ぐ形で始まった。長年地元で活動を続けてきた女性会が母体のため、各家庭への連絡もスムーズに行われ



左から井上さん、石沢さん、志田さん、山村さん、中野さん。

たという。3カ所ある回収拠点は回収日時を記入した看板が常時かけられ、ふだんから通行人の目につきやすい。回収時には各拠点に数名の会員が立ち会い、油を持参した人にお礼として缶・びん・ペット資源回収用の透明袋を渡している。毎回1カ所、夏はポリタンク1個分、冬は2個分くらいの油が集まる。「開始当初は、引き取り業者が道路を汚すのではと心配する声も聞かれたが、トラブルもなく運営は順調」と会長の山村さん。

同会では、女性会が30年前から続けてきた古紙回収を行う他、学区全体で取り組む桂川・難宮前公園の清掃にも協力している。



油を入れたびんやペットボトルは「自己責任」で持ち帰る。

- ◆会長：山村和子
- ◆会員数：150人
- ◆発足：1999年（平成11年）7月
- ◆使用済み天ぷら油の回収：毎月第2水曜日、午前9時〜10時。回収拠点は3カ所。

## 京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！No.24

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2003年（平成15年）10月発行  
〒604-8571 京都市中京区寺町御池  
京都市環境局 環境政策部 循環型社会推進課内  
TEL 075-257-5053 FAX 075-213-0453  
E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp  
URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

企画編集：京都市ごみ減量推進会議広報活動実行委員会

委員長/寺島晃 副委員長/宮本時江

実行委員/浅利美鈴、大橋正明、岡松誠一、田中眞砂子、中島和子・

西田敏光・細川万里子・前田純一・森田知都子・山本忠史

古紙100%の再生紙（日産製70）に大豆油インクで  
風力発電による自然エネルギーを用いて印刷しています。



## 【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

## 【会費】

市民（市民団体・消費者団体・環境団体等）	1口1千円
専門家（学識経験者等）	（年間1口以上）
地域ごみ減量推進会議	
大学・マスメディア・事業者団体	1口1千円
企業等・行政	（年間2口以上）

詳細は、事務局へお問い合わせください。